

提出日：令和 3年 2月 25日
所 属： 獣医 学部 獣医 学科
氏 名： 高木 哲 職位： 准教授

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）																																		
<table border="1"><thead><tr><th>科目名</th><th>学科・専攻</th><th>必, 選, 自</th><th>配当年次</th><th>受講者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>獣医外科学</td><td>獣医</td><td>必須</td><td>4</td><td>150</td></tr><tr><td>獣医外科学実習</td><td>獣医</td><td>必須</td><td>5</td><td>150</td></tr><tr><td>獣医総合臨床</td><td>獣医</td><td>必須</td><td>5</td><td>150</td></tr><tr><td>小動物臨床実習</td><td>獣医</td><td>必須</td><td>5</td><td>150</td></tr><tr><td>小動物病院実習</td><td>獣医</td><td>選択</td><td>6</td><td>10</td></tr></tbody></table>					科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数	獣医外科学	獣医	必須	4	150	獣医外科学実習	獣医	必須	5	150	獣医総合臨床	獣医	必須	5	150	小動物臨床実習	獣医	必須	5	150	小動物病院実習	獣医	選択	6	10
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数																														
獣医外科学	獣医	必須	4	150																														
獣医外科学実習	獣医	必須	5	150																														
獣医総合臨床	獣医	必須	5	150																														
小動物臨床実習	獣医	必須	5	150																														
小動物病院実習	獣医	選択	6	10																														
2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）																																		
<p>・ 獣医学部を卒業しても自信をもって活動できないことがないように自己肯定感を確立させるため、物事の本質を多方面から捉えることができるようにし、将来揺らぎない自己を育てる。</p> <p>・ 海外の専門医と日本のトップレベルに技術的には差はないが獣医業界全体の平均点としては劣っていると感じており、教育手法が確立されていると感じたことから基礎から応用までがエビデンスをもって実行できる獣医師を育てる。</p> <p>・ 卒業生は必ずしも獣医師としてのみでなく活躍しているので自己完結能力をもって将来どの分野にも対応できる可能性を持った人物を育てる。</p>																																		
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）																																		
<p>[概要] 獣医学は自然科学であり、利用可能な多くの情報からその客観的な評価を効率よく進めていくための方針と学習のツールとしての方法が存在する。</p> <p>[方針1] 自然科学は正答を選ぶ学問ではない。同様に、臨床例の診断治療においてもそれぞれの「答え」を覚えるのではなく、「解き方」を学ぶ。</p> <p>[方法] 症例の手術・診療においてなぜそうなっているかを常に説明する。 低学年の授業においては匿名で質問できる環境を整える。 高学年・卒後教育においては自分より下の立場への説明ができるようにする。</p> <p>[方針2] ひとつの課題からひとつではなくより多くのことを学ぶ。</p> <p>[方法] 診療の前後に症例検討会を行う。</p>																																		

学生の卒論ミーティングは2週間ごとに必ず全員で行う。

[方針3] 確実な基礎知識を育成する。

[方法] 授業後の小テストを実施する。

スマートフォンでも確認できる基礎手技の映像教材を制作する。

試験内容の正答は本質に関わることを選択できるようにする。

[方針4] 自らの力で解決策を見つける能力を得る。

[方法] 学生の論文ゼミの運営補助はするが当日の進行自体は学生が主導する。

研修獣医師はインフォームシートの作成を共同で行う。

[方針5] 常に最近の知識を得ることが重要であることを理解する。

[方法] 授業教材は毎年手直しする。

実習内容も毎年手直しする。

アクティブラーニングについての取組

コロナ禍でアクティブラーニングは停止している。

ICTの教育への活用

ストリーミング映像教材開発、VR教材開発

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

① 教育（授業、実習）の創意工夫（A～C） A

② 学生の理解度の把握（A～C） A

③ 学生の自学自習を促すための工夫（A～C） A

④ 学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A～C） B

⑤ 双方向授業への工夫（A～C） B

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

双方向性はオンデマンド授業ではディスカッションで対応しているが、質問が来ることはない。将来的に対面授業となった時に質問等の頻度を上げていくことを検討している。

⑥ 国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

今年度は獣医師国家試験の作成にかかわる試験部会長代理担当であった。このため本学学生の試験対策には関与できない。

5. 学生授業評価

<p>① <u>授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。</u></p> <p>授業評価はオムニバスで参考にならない部分もあるが、自分に関わる場所は参考にした。</p> <p>② <u>①の結果はどうでしたか。</u></p> <p>特になし</p> <p>③ <u>②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。</u></p> <p>アンケートを参考にした構成を考えていく。なお、外科実習では独自のアンケートを回収しているのでもちらを参考としている。</p>
<p>6. 学生の学修成果</p>
<p>① <u>学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</u></p> <p>コロナ前より小テストを毎回実施している。</p> <p>② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価</p> <p>(コロナ前) 定期試験前はあまり小テストを回答している学生はいなかったが、試験前には対策として回答している学生が増えていた。</p>
<p>7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)</p> <p>できる限り積極的に参加している。</p>
<p>8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)</p> <p>短期的には対面授業での双方向性を確立することが目標である。</p> <p>長期的には学生が自主的に課題を見つけ、自力で解決する考える力をつけることができるようにする。</p>
<p>9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ</p> <p>シラバス, 小テスト, 試験問題, 教材 (配布資料, パワーポイント資料など)</p> <p>(教育に直接貢献する研究, FD プログラムなどへの参加記録, 教育の工夫を示すもの (複数年のシラバス等), 教育活動関連の補助金の獲得</p> <p>授業評価データ, 授業に関するコメント (授業評価の自由記述やメールのやりとり等)</p> <p>作成教材についての意見, 同僚のサポート実績</p>